

学校教育 目標	夢に向かって、考え・実践するたくましい子どもの育成
育成を目指す 資質・能力	○夢や目標をもつ力 ○考え・実践する力 ○心身のたくましさ

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○全国学力・学習状況調査や県学力調査では、学校全体の平均正答率は全国や県を上回っているが、個別だと、平均正答率に達していない児童の割合も高く、学力の二極化が見られる。 ○国語・算数の単元末テストでは、低学力層(60点未満)の児童の割合は重点目標の5%以下を達成。算数の思・判・表の割合が2.8%で最も高く、次いで社会の思・判・表の割合が2%。 ○各教科共通で、活用力、必要な情報を読み取る力、情報の要旨を捉える力、理由・根拠をもとに自分の考えをまとめ説明する(書く)力に課題がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○全国の質問調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」児童の割合は49.1%で県や全国より高い。 ○自分で考え進んで取り組もうとする児童の育成に向け、取り組んできた結果、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童の割合は45.3%(昨年度23.8%)で県や全国より高くなった。 ○家庭学習を平日1日1時間以上していると答えた児童は64.2%であった。また、「読書は好きですか」に対する肯定的な回答をした児童の割合は71.7%だった。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「授業は分かりやすい」の肯定的評価は95%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「家や図書館の本を読んでいる」の肯定的評価は84%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「家庭学習(学年×10分+10分以上)ができている」の肯定的評価は85%であった。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)において、「協働して学び合い、どの子も「分かった・できた」が実感できる授業にするため、付けたい力を焦点化し、解決したいと思える課題設定の工夫と考えを広げるための手だての工夫に取り組んでいる」の肯定的評価は88%であった。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)において、「スキルタイムや家庭学習等で、個に応じた指導の充実に取り組んでいる」の肯定的評価は94%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)において、「図書館に行く機会を設けたり、家の本を読むことを推奨したりしている」の肯定的評価は75%であった。	

学力に関する達成指標

国語・算数の単元末テスト「思考・判断・表現」の項目の学期平均における60%未満の児童を5%以下にする。

今後の 具体的 な取組	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 思いや考えをもち、協働して学び合う児童生徒の育成 ～9年間を見通した主体的な学びと意欲的な活動を育む小中連携をめざして～	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 UDの3視点(焦点化・視覚化・共有化)と生徒指導の3機能を生かした指導 ①問題発見力を育成する授業づくり＝課題設定の工夫(焦点化) ②主体的・協働的に問題解決する楽しさと良さを味わわせる授業づくり ＝主体的・対話的活動の充実(視覚化・共有化) ③自己効力感を育む授業づくり＝自分の学びや次の取組を考える振り返り	〈家庭・地域の取組内容〉 ○家庭における学習習慣の確立に取り組む。 ○「あけのSNS三原則」に取り組む。 ○ボプラタイム(総合的な学習の時間)等において学校に協力する。
	〈取組指標〉 ①付けたい力を焦点化し、こどもが意欲をもって解決したいと思える課題づくりを行う。 ②課題を解決するために、協働して学び合う活動を工夫する。 ③視点に沿った振り返りを通して、こどもが自分の学びを自覚したり、次の取組を考えたりすることにより、授業(単元)終了時に、分かった・できたを実感させる。	〈家庭・地域の取組指標〉 ○「家庭学習の手引き」に基づいた学習時間・内容に取り組む。 ○家庭・地域の方や団体が、授業や朝の活動などの学年においても協力する。
	〈検証指標〉 ①授業でみんなで解決したいことを見付けたり考えたりすることができた児童80%以上 ②授業で自分から進んで考え、友だちと話し合いながら活動することができた児童80%以上 ③授業で自分の学びについて振り返ることができた児童80%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 学校評価アンケート(保護者)において、「こどもは『家庭学習の手引き』等を参考にして家庭学習が習慣化できている」の肯定的評価80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○スキルタイム(週2回)の取組の充実 ・全学年で共通した、教科書に準拠した応用問題集(算数)に取り組む。 ・全学年で共通した、必要な情報を読み取ったり要旨を捉えたりした上で、理由・根拠とともに自分の考えをまとめて書くことをねらいとして活用問題集(国語)に取り組む。 ○本に親しめるよう、貸出時間の保障や図書館支援員と連携した読書環境の充実を図る。 ○「家庭学習のてびき」の活用について、学年通信や学級懇談会等を通して定期的に保護者に呼びかけ、家庭学習の充実を図る。 また、ICT機器を活用し、個別最適な学びの充実を図り、自ら学ぶ児童の育成に努める。 ○小中9年間を見通した「明野中学校区 小中一貫教育 家庭学習の手引き」の活用やこども一人ひとりのつまずきに応じた家庭学習を出す等、家庭学習の充実を図り、面談・学級懇談会・学年通信等を通して、保護者との連携を深める。	